

大阪市総合教育センター
教育振興担当 実践研究グループ
首席指導主事様

研究コース
A グループ研究A
校舎コード (代表者校舎の市費コード)
732663
選定番号
162

代表者	校舎名:	大阪市立大和川中学校
	校舎長名:	吉本 恵美
	電話:	06-6694-0005
	事務職員名:	福山 大志
申請者	校舎名:	大阪市立大和川中学校
	職名・名前:	校長 吉本 恵美
	電話:	06-6694-0005

令和7年度 「がんばる先生支援」報告書

◇「がんばる先生支援」について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	新規研究 (1年目)												
2	研究テーマ	「命を考える」教育活動を柱とした平和維持学習 ～ 『自律する力、他者を尊重し思いやる心』の育成 ～															
3	研究目的	<p>本校は、すべての生徒が安心して安全に学習できる教育環境の実現を図るために数年前の大きな学校崩壊からの学校再建として「秩序構築」をテーマに1年生入学時に宿泊オリエンテーションを取り入れ、「時を守り、場を清め、礼を正す」の自主自律の精神の育成、また「命を考える」教育活動の柱とした「平和維持学習」に取り組んでいる。生徒が主体となる様々な教育活動で、健康でたくましく「自律する力、他者を尊重し思いやる心」の育成を「チーム大和川中学校」として進めている。授業規律の徹底を基盤とし、考える力の素地となる基礎学力の定着、併せて学力向上を目指し、前期・後期の2期制継続や令和5年度より「国語」「数学」「英語」の全学年での習熟度別授業で「ひとり一人の学びを最大限引き出す、個別最適な学びの実現」を図り、生徒一人ひとりが「学びへの意欲」や「学ぶこと、考えることの楽しさ」を感じることのできる授業づくりに全教員が取り組んでいる。前述のように、平和維持学習の研究を通して、教員の資質や指導力の向上を図る。また、これらを本校独自の教育活動でとどめることなく、発信することでの取り組みについての理解や各学校現場に応じての普及および本校の教育のさらなる発展を目的とする。</p>															
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSコミック 9.5ポイント)</p> <p>本校は、数年前に発生した学校崩壊を契機として、教育活動全般の見直しを図り、学校再建に向けた取組を進めてきた。再建にあたり、最優先課題を「すべての生徒が安心して安全に学習できる教育環境の確立」と位置付け、その実現のため「秩序構築」を学校経営の中核に据えた。単なる規律の徹底ではなく、生徒一人ひとりが自主自律の精神を身に付け、主体的に秩序を守り、よりよい集団を形成できる学校づくりを目指して研究を推進した。本研究の目的は、①「時を守り、場を清め、礼を正す」を基盤とした自主自律の精神の育成、②「命を考える」教育を柱とする平和維持学習の確立、③秩序ある学習環境のもとでの基礎学力の定着および学力向上の3点である。</p> <p>これらを通して、生徒が「自律する力」及び「他者を尊重し思いやる心」を身に付け、健やかに成長することを目指した。学校再建の基盤として、「時を守り、場を清め、礼を正す」を共通実践事項とし、全教職員の共通理解のもと指導の統一を図った。主な取組は以下のとおりである。第1学年入学時における宿泊オリエンテーションの実施、授業規律の徹底、生活指導の組織的・継続的实践、教職員間の情報共有体制の強化等の取組により、学校全体の落ち着きが回復し、学習に集中できる環境整備が進んだ。</p> <p>「命を考える」教育活動を研究の柱とし、「平和維持学習」として体系的に推進している。</p> <p>具体的には、命の尊さを考える学習活動・他者理解及び共感力を育成する取組・集団の中での責任や役割を自覚させる指導を実施した。これにより、生徒が規律の意義を理解し、自ら秩序を守ろうとする態度の育成が図られている。秩序ある環境を基盤として、学力向上施策を推進した。前期・後期の2期制の継続、数学・英語における全学年習熟度別授業及びティーム・ティーチングの実施、個別最適な学びの実現に向けた授業改善により、基礎学力の定着を図るとともに、生徒一人ひとりの理解度に応じた指導を可能とした。その結果、学習意欲の向上や「分かる喜び」の実感につながっている。</p> <p>平和維持学習の研究を通して、校内研修の充実、授業公開及び研究協議を継続的に実施した。教科横断的な視点での実践共有を進めることで、組織的な指導体制の確立と教員の指導力向上を図った。</p> <p>本研究を通して、学校全体の規律が安定し、安心・安全な教育環境が整備され、生徒の自己管理能力及び規範意識の向上が見られ、他者を尊重し、思いやる態度の育成が進み、基礎学力の定着と学習意欲の向上が見られた。また、教職員の協働体制が強化され、組織的な学校運営が推進することができた。今後の課題として、平和維持学習の体系化及びカリキュラムの精緻化、習熟度別授業の成果検証と改善、取組の客観的データによる分析、研究成果の積極的な発信と普及である。</p> <p>今後も「秩序構築」を基盤とした学校再建を進める中で、平和維持学習及び学力向上施策を組織的に推進してきた。秩序は管理のためのものではなく、生徒一人ひとりの成長を支える土台である。本研究を通して、自主自律の精神の育成と、安心して学べる教育環境の確立が着実に進んでいる。今後も研究を継続・発展させ、その成果を広く発信することで、教育の質のさらなる向上に努めていく。</p>															
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 7 年 10 月 2 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 40 名</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td colspan="3">大阪市立大和川中学校 体育館</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>				日程	令和 7 年 10 月 2 日	参加者数	約 40 名	場所	大阪市立大和川中学校 体育館			備考			
日程	令和 7 年 10 月 2 日	参加者数	約 40 名														
場所	大阪市立大和川中学校 体育館																
備考																	

6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、「子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力」の育成および「教員の資質や指導力」の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p>
		<p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>全教職員で「命を考える」教育活動を図り、いじめ・差別を許さない学校づくりを推進する。定期的ないじめアンケート調査や生徒教育相談、また保護者懇談、家庭訪問等の実施で、一人一人の生徒情報を丁寧に把握し、共通理解および適切な指導を進める。</p> <p>《検証方法》</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の項目に対し肯定的な回答を95%以上にする。（昨年度：95.3%）</p>
		<p>[検証結果と考察]</p> <p>12月末の校内アンケート調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の項目に対し、肯定的な回答をした生徒の割合は97.2%であった。昨年よりも1.9ポイント向上した。昨年度より生徒会がいじめを考える日（5月12日（月））に有志を募り事前に作成した動画を全校生徒に向けて放映し、生徒が主体的にいじめに対して考える機会を設けることで、いじめに対する意識向上につながった。</p>
		<p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>「秩序構築」をテーマに取り入れている新入生入学時の宿泊オリエンテーションを全教職員必修の学校研修とする。「時を守り、場を清め、礼を正す」の自主自律の精神の育成、他者を尊重し思いやる心の育成を「チーム学校」として取り組む。</p> <p>《検証方法》</p> <p>校内生活アンケートにおける「学校では命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を昨年度より増加させる。（昨年度：92.8%）</p>
		<p>[検証結果と考察]</p> <p>12月末の校内アンケート調査における「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目に対し、肯定的な回答をした生徒の割合は96.0%であった。昨年よりも3.2ポイント向上した。4月11日（金）において「秩序構築」をテーマに取り入れている新入生入学時の宿泊オリエンテーションを全教職員必修の研修として行った。研修において、教職員間で「秩序構築」を確認することで、さまざまな教育活動において「時を守り、場を清め、礼を正す」の自主自立の精神の育成や他者を尊重し思いやる心の育成を「チーム学校」として取り組むことができた。</p>
		<p>【見込まれる成果3】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>授業規律の確立と学びの環境づくりを目指す。特に学習習慣の定着していない生徒の学習に対する意欲を引き出し、基礎学力の向上に努める。また、自ら学習ツールや教材を選択し、主体的に学びに取り組む生徒の育成に取り組む。</p> <p>《検証方法》</p> <p>授業アンケートにおける「授業に一生懸命に取り組んでいる」の項目に対し肯定的な回答を95%以上、「授業はわかりやすい」の項目に対し肯定的な回答を90%以上にする。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>12月末の校内アンケート調査における「授業に一生懸命に取り組んでいる」の項目に対し、肯定的な回答をした生徒の割合は96.0%、「授業はわかりやすい」の項目に対し、肯定的な回答をした生徒の割合は92.0%だった。今後は、デジタルドリル「navima」やスタディサプリ等を活用し、個別最適な学びの実現に向け取り組んでいく。</p>

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>毎時間の授業や学びの振り返り、単元テストや小テスト等で日々の「生徒のつまづき」や課題を把握し、授業改善や「生徒一人一人の学びを最大限に引き出す個別最適な学びの実現」を進めていく。特に「数学」「英語」での全学年習熟度別授業やTeam teachingを継続して行い、生徒の理解度UPを目指す。</p> <p>《検証方法》</p> <p>チャレンジテストにおける対市平均を同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>9月に実施された3年生チャレンジテスト結果より社会、理科、英語の3教科は対市平均を前年度より向上した。(社会0.82⇒0.84、理科0.83⇒0.86、英語0.87⇒0.92)国語、数学に関しては、どちらも0.96⇒0.92と向上することはできなかった。今後も毎時間の授業や学びの振り返り、単元テストや小テスト等で日々の生徒のつまづきや課題を把握し、授業改善を進めていく。</p>
---	-------	---

6	研究全体を通じた成果と課題	<p>【研究全体を通じた成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本研究の成果として、他者を尊重する言動の増加、基礎学力の定着、教職員の協働体制の強化があり、今後の課題としては、平和維持学習の体系化、習熟度別授業及びチーム・ティーチングのさらなる検証、生徒主体活動の深化等の取組をより精緻化し、実践を発信していく。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>《代表校園長の総評》</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本校は「命を考える」教育活動を柱とした平和維持学習の充実を図った。命の尊さをはじめ、自主自立の精神のもと他者を尊重し、思いやりの心の育成や自己肯定感の向上を主題とした日々の教育活動や授業を実施し、その結果、生徒の振り返りにおいて、いじめを絶対にゆるさない、命の尊さを学んだ、人の役に立ちたい項目において95%以上の生徒から肯定的な回答を得られた。他者理解や思いやり、望ましい人間関係の構築に一定の成果が見られた。学力向上に向けた取り組みとして、各教科において、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を推進した。小テストによる到達度確認、補充指導の実施、家庭学習の指導強化を行った結果、基礎的・基本的事項の定着に改善が見られた。今後は、発展的内容への対応や学習意欲のさらなる向上を目指し、個に応じた指導の一層の充実を図る必要がある。また、研究主題に基づき、公開授業及び研究協議会を計画的に実施した。ICT活用に関する研修会を通して、教員の指導力向上を図った。協議の場においては、授業改善の具体的方策について活発な意見交換が行われ、教職員の意識向上やタブレット端末やデジタル教材を活用した授業を推進し、資料提示、意見共有、振り返りの即時化等において効果が見られた。一方で、教員間で活用頻度に差があり、ICT活用が目的化する傾向も一部に見られた。今後は、活用率の可視化及び効果検証を行い、教育的効果を重視した活用へと改善していく必要がある。本研究を通して、今後も命を尊重する態度の育成及び学力向上に向けた教育活動を充実させていきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>
---	---------------	--